

5 石狩市

【基本情報】

○人口 60,436人（平成25年1月末現在）

○面積 721.86k㎡

○新千歳空港より車で約1時間30分程度

○札幌市の北側に隣接し、石狩湾に臨む水に恵まれた環境にある。近年は、石狩湾新港をベースにした国際的な文化・経済の拠点として、発展を遂げている。

(1) モデル事業開始時の地域の状況

ア 地域における子ども・若者の状況

平成23年5月、市内の15歳から39歳3,000人（無作為抽出）を対象に、「若者の日常生活と意識に関するアンケート調査」を実施、ひきこもり群1.90%（推計315人）、ひきこもり親和群5.82%（推計967人）であることが判明した。（H22年度 地域活性化交付金を活用）

平成24年3月、市内にて「ひきこもり講演会」を開催、4月から市内で障害者自立支援法の指定相談支援事業者である特定非営利活動法人ふれあい広場タンポポのはら 相談室ヨルドに「石狩市若者相談支援事業」を業務委託し、ひきこもり相談員1名を配置し、相談室既存の相談員と併せ、当市におけるひきこもり相談窓口としている。

イ 総合相談窓口の設置状況

「石狩市若者相談支援事業」を業務委託している相談室ヨルドのひきこもり相談を協議会設置後に総合相談窓口へ移行する予定。

主な対象者：15歳～30歳代の困難を抱える子ども・若者とその関係者

(2) 今年度事業の課題と目標

ア 地域協議会設置に向けた課題

当市の地域協議会は「石狩市こども見守りネットワーク協議会（要保護児童対策地域協議会）」をベースに構築することを想定している。

構成機関のうち、特に若者支援に関する関係機関を参集、これまで属していなかった雇用等に関する機関については今回新たに参加を依頼することとなる。

これまでの年齢や福祉、教育、医療、雇用等の各専門分野の枠を超え、若者を支援の対象とすることから、参加機関の理解を深めるための新たな知識の獲得や共通理解を獲得し、実際のネットワーク支援に結び付けていくためのケース検討あり方等が課題である。

イ 課題を克服するための今年度の目標

<目標①>

支援者同士の関係づくりを重視し、互いの分野の理解と共通の目標を得る。

<目標②>

多くの関係機関の支援者に参加してもらえるよう、地域協議会や相談窓口、研修会の周知を丁寧に継続して行う。関係機関長に加え、実務者への周知を徹底して行う。

(3) 今年度の実施内容

石狩市では地方企画委員会2回、ユースアドバイザー定例会6回、ユースアドバイザー講習会6回を実施した。

	平成24年						平成25年		
	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
地方企画委員会			○					○	
ユースアドバイザー定例会議			○	○	○	○	○	○	
ユースアドバイザー養成講習会			○	○	○	○	○	○	

ア 地方企画委員会

市の関連部局職員及び民間支援団体代表者を委員とし、子ども・若者支援地域協議会設立に向けての方針確認、構成メンバーや内容についての検討、支援の在り方について検討を実施した。

図表 67 石狩市における地方企画委員会実施内容

回	日程	実施内容	
1	9月10日	議 題	<ul style="list-style-type: none"> ・当モデル事業について ・今年度の事業の進め方について
		概 要	<ul style="list-style-type: none"> ・当モデル事業の概要やその目的、地域支援協議会について説明し、地域協議会を設置し、子ども・若者支援を推進することの必要性等について、相互理解を図った。
		運営の工夫、成果	<ul style="list-style-type: none"> ・地方企画委員会、定例会議、養成講習会を同日に開催することで、内閣府の当事業の委員であるNPO法人「育て上げ」ネット理事長の工藤啓氏の話聞く機会を設けた。
2	2月7日	議 題	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度の定例会議、ユースアドバイザー養成講習会の実施報告 ・次年度の事業の進め方について ・地域協議会の要綱説明
		概 要	<ul style="list-style-type: none"> ・定例会議、ユースアドバイザー養成講習会で実施した概要を説明。 ・次年度の事業の進め方について説明を行い、方向性を確認した。 ・地域協議会設置要綱案を説明した。
		運営の工夫、成果	<ul style="list-style-type: none"> ・定例会議及びユースアドバイザー養成講習会の実施内容を説明することで実施成果について共有出来た。 ・予定している地域協議会の機能や体制について、地域協議会設置要綱案をもとに説明を行い、地域協議会の全体像を共有出来た。

イ ユースアドバイザー定例会議

ユースアドバイザー定例会は、講習会と同日開催とし、構成メンバーが講習会で新たな知識を得ることができ情報を共有した上で、定例会で意見交換を行った。また、地域課題や各機関・支援者が抱える課題を共有するために、第2回定例会においてワールドカフェ方式を取り入れることにより一定の成果を得ることが出来た。

図表 68 石狩市における定例会議実施内容

回	日程	実施内容	
1	9月10日	議 題	<ul style="list-style-type: none"> ・石狩市の取組について ・モデル事業の概要について ・個人情報の取り扱いについて
		概 要	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの石狩市の取組や当事業の目的や子ども・若者地域支援協議会について説明と今年度の予定について説明をした。 ・協議会設立後の個人情報の取り扱いについて説明をした。
		運営の工夫、成果	<ul style="list-style-type: none"> ・現状を知ってもらうために、昨年度実施した石狩市での「若者の日常生活と意識に関するアンケート調査結果」を説明し、ひきこもりの推計値を報告した。 ・行政関係者だけでないため、個人情報の取り扱いの重要性を最初に説明し、共有を図った。
2	10月10日	議 題	<ul style="list-style-type: none"> ・関係機関における事業概要と課題について
		概 要	<ul style="list-style-type: none"> ・ワールドカフェ形式により、テーマ1「私の機関では、子ども・若者支援について、今こんなことが話題になっています。(課題や力を入れている点)」、テーマ2「私の機関の役割、強み・弱みについて」、テーマ3「子ども・若者支援において関係機関が連携して支援する必要がある場面とは。(過去連携が必要となったケースやこんなことがあればいいな、等)」について意見交換を行った。
		運営の工夫、成果	<ul style="list-style-type: none"> ・意見交換後に、「石狩市での関係機関連携による支援において、私の機関はこのような貢献ができる、私の機関はこのような役割を担いたい」と各機関から積極的な意見を出してもらえるように工夫した。その結果、「いろんな機関の方とお話ができる機会になり嬉しく思う。支援の連携につなげたい」や「支援者の悩みを軽減する為のパイプ作りも必要」等現状から一歩踏み出した意見が関係機関から聞くことが出来た。
3	11月26日	議 題	<ul style="list-style-type: none"> ・困難を抱える子ども・若者の事例から子ども・若者支援のあるべき姿と協議会の役割を検討する
		概 要	<ul style="list-style-type: none"> ・4グループに分かれて、地域での事例を基にして、若者の視点、若者のニーズから子ども・若者支援と地域協議会の役割を検討した。
		運営の工夫、成果	<ul style="list-style-type: none"> ・6人程度のグループで意見交換することにより、できる限り各委員の発言の機会を増やし、定例会議への参加意識を高めるように工夫した。グループでの意見交換は

回	日程	実施内容	
			模造紙やポストイットを使い、地に足のついた議論ができるように工夫した。 ・協議会として「これだけの関係機関が集まっているので、足並みを揃えること、どのような支援のかたちが子どもや家族に適切なのかも含めて、情報の整理と舵取り役として協議会が機能すれば生きてくる」との意見が委員から発言される等、協議会の目指すべき方向性を各委員が認識しつつある。
4	12月18日	議 題	・子ども、若者イメージについて
		概 要	・グループ形式で、テーマ1「最近の子ども、若者について、『漢字一文字』で表わすとしたら?」、テーマ2「ひきこもり、不登校のイメージを『色』で表わすとしたら何色?」について意見交換を行った。
		運営の工夫、成果	・6人程度のグループで意見交換をすることにより、顔の見える関係を構築することが出来た。 ・子ども・若者のイメージからその背景にある事実を引き出すことで、立場の違いはあっても思いや願いは共通であることを確認出来た。
5	1月11日	議 題	・地域協議会の構想について～提供サービスマップ作成を通じて～
		概 要	・支援者の目線から現在、各機関で行われている子ども・若者に対する支援の内容を書き出し、「不登校、ひきこもり、いわゆるニート、非行、障がい」等の困難の状況やタイプと「発見、誘導、支援、出口」の支援の段階のマトリックス表で整理した。 ・その上で、支援の空白地帯を明らかにし、協議会の役割を検討した。
		運営の工夫、成果	・石狩市における子ども・若者支援に関する社会資源や支援内容について改めて整理することが出来た。 ・6人程度のグループで意見交換をすることにより、顔の見える関係を構築することが出来た。 ・委員から「市内や近隣で誘導や出口の支援をしている団体は少ない」や「伴走型の支援スタッフが必要」と支援の空白地帯が明らかになり、協議会の役割が明確になった。
6	2月7日	議 題	・地域協議会の要綱について ・来年度の予定について
		概 要	・地域協議会設置要綱（案）をもとに、地域協議会の全体像を確認した。 ・来年度の予定について説明した。
		運営の工夫、成果	・地域協議会の意義や機能について理解の促進が図られ、要綱（案）についても概ねの同意が確認出来た。

ウ ユースアドバイザー養成講習会

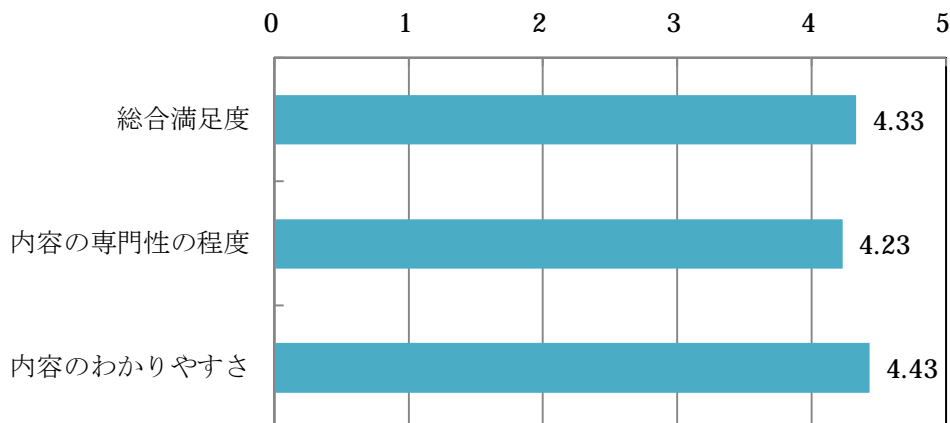
全国的な社会情勢や先進的な取組と地元の北海道での実態を理解して頂けるようにテーマの選定、講師の選定を行った。

講習会の対象者は、関係機関の実務者を中心に民生委員や保護司等の参加があった。常時約 25 名の参加者があった。

図表 69 石狩市ユースアドバイザー養成講習会実施内容

回	日程	講習内容	講師
1	9月10日	1. 制度の概要及び業務の内容 (45分)	講師：NPO 法人「育て上げ」ネット 理事長 工藤啓
		2. 若者をめぐる状況と自立支援の現状 (90分)	講師：NPO 法人「育て上げ」ネット 理事長 工藤啓
2	10月10日	1. 学校現場の現状 (90分)	講師：都留文科大学 准教授 筒井潤子
		2. 学校現場の対応 (90分)	講師：さくら教育研究所 所長 小澤美代子
3	10月26日	1. 不登校とメンタルヘルス (60分)	講師：北海道教育大学札幌校 准教授 平野直己
		2. 発達障がいと不登校 (60分)	講師：こころとそだちのクリニックむすびめ 院長 田中康雄
4	12月18日	1. 医療機関からみたひきこもり (65分)	講師：爽風会佐々木病院 診療部長 斎藤環
5	1月11日	1. ひきこもりの支援について～佐賀県の取組～ (180分)	講師：NPO 法人ステュデント・サポート・フェイス 代表理事 谷口仁史
6	2月7日	1. 困難を抱える若者の就労に向けて (60分)	講師：さっぽろ若者サポートステーション 総括コーディネーター 松田考
		2. 若者からのメッセージと若者支援の実際 (90分)	講師：札幌学院大学 大橋伸和 相談室ヨルド 田村さやか

図表 70 ユースアドバイザー養成講習会の理解度・満足度
(とても満足5、満足4、普通3、不満足2、とても不満足1)



図表 71 ユースアドバイザー養成講習会受講前後の知識・スキルの変化

講習内容	チェック項目	受講後	受講前	受講後に伸びた割合
制度の内容及び業務の内容	ユースアドバイザーの役割や若者支援ネットワーク構想の経緯を理解している	4.00	2.28	1.72
	支援者の実態を理解している	3.50	2.28	1.22
若者をめぐる状況と自立支援の現状	若者の自立支援の現状について理解している	4.00	2.89	1.11
	労働環境について(職業紹介も含む)、就労支援について	4.08	2.78	1.31
不登校、高校中退について、若者のひきこもりについて	不登校、高校中退について、その特徴と対応の在り方について理解している	4.08	3.17	0.92
	若者のひきこもりについて、その特徴と対応の在り方について理解している	3.92	3.18	0.74
若者のメンタルヘルスについて(知的障害、発達障害、精神障害を含む)	知的障害、発達障害について、その特徴と対応の在り方について理解している	4.00	3.00	1.00
若者の非行、犯罪について、少年司法の仕組みについて	非行、犯罪について、その特徴と対応の在り方について理解している	3.58	2.78	0.81
公的扶助、障害者福祉の仕組み	公的扶助の仕組みを理解し、支援する際に活用できる	3.50	3.17	0.33
ネットワークの構築と個人情報保護について	若者支援ネットワークに望まれる特性について、その意義を理解している	3.91	2.83	1.08
ケース検討会のあり方	ケース検討会、担当者レベルでの会合の進め方について理解している	3.67	2.65	1.02
「動機付け面接」など効果的な面接方法の実習	グループワーク(グループを用いた支援)の意義やその概要を理解している	3.58	3.18	0.41
アウトリーチ(訪問支援)について	アウトリーチ(訪問支援)の目的や概要を理解している	3.75	2.67	1.08

Ⅰ 参加主体(1～3それぞれの参加主体一覧)

図表 72 石狩市における参加主体一覧

		教育	福祉	保健・医療	矯正・更生保護	警察	雇用	その他
地方企画委員会	機関	<ul style="list-style-type: none"> 石狩翔陽高等学校 石狩南高等学校 札幌高等養護学校 北海道星置養護学校 石狩紅葉山分教室 市内各中学校 石狩市教育支援センター 	<ul style="list-style-type: none"> 北海道中央児童相談所 石狩市社会福祉協議会 民生委員児童委員協議会 石狩市市民生活課 石狩市福祉総務課 石狩市障がい支援課 	<ul style="list-style-type: none"> 医療法人 悠気会 熊谷病院 北海道石狩振興局保健環境部保健行政室子ども・保健推進課 こころのリハビリセンター 石狩市保健推進課 	<ul style="list-style-type: none"> 石狩地区保護司会 	<ul style="list-style-type: none"> 札幌方面北警察署 	<ul style="list-style-type: none"> 札幌北公共職業安定所 石狩市ふるさとハローワーク(ジョブガイド いしかり) 石狩障がい者就業・生活支援センターのいける 石狩市商工労働観光課 	<ul style="list-style-type: none"> 札幌人権擁護委員協議会石狩部会 石狩市市民生活課
	個人	—	—	—	—	—	—	—
定例会議	機関	地方企画委員会の参画機関と同様						
	個人	—	—	—	—	—	—	—
養成講習会	機関	地方企画委員会・定例会議の参加機関を始めとして、市の保護司、民生委員・児童委員等に幅広く参加していただいた。						
	個人	—	—	—	—	—	—	—

(4) 今年度事業の成果

ア 地域における若者支援に関する理解向上及び支援人材の育成

ユースアドバイザー養成講習会を通じて、市職員や県の関係機関の実務者、民生児童委員、

等様々な人材が、子ども・若者を取り巻く社会の現状や課題を知り得る機会を提供出来た。道下や周辺地域の現状について知ることができ、養成講習会では全体を通して平均出席人数が約25人となり、子ども・若者育成支援に関する問題意識や知識を高める結果となった。

イ 関係機関の連携の素地づくり

全6回の定例会議を通じて、5～6人程度の小グループにて意見交換を4回行うことで、担当者同士が顔の見える関係になり、関係機関の支援内容、強みや弱みについて相互理解を深めた。具体的には、第2回定例会議ではワールドカフェ形式での情報交換、第3回では事例から子ども・若者支援のあるべき姿についてのワークショップ、第4回では若者のイメージからその背景の事実や想いを探り、第5回既存の支援機関の支援内容をマトリックス表に整理するワークショップを行うことで、率直な意見交換をすることができ、子ども・若者支援の連携へ意欲が高まった。

ウ 地域協議会の全体像の検討

定例会議及び地方企画委員会を通して地域協議会の設置意義について共有出来た。特に第2回定例会議で若者視点に立ち、第3回定例会議で現場の支援者視点に立った子ども・若者支援や地域協議会の役割を検討することで、担当者の理解が深まった。今後設置を予定している地域協議会の機能、体制等の全体像について共有し、各関係機関の理解を得るとともに、合意形成へのアウトラインが確認出来た。

(5) 協議会設置に向けた課題（今年度設置した地域は、設置後の課題）

ア 有機的な協議会の運営方針

関係機関で議論を重ねることで地域協議会の設置意義や機能、体制等については共通理解が図られた。ただ、今後実際にどのような取組を具体的に進めていくのか方向性が定まっていない。来年度の協議会設立までには、小規模自治体の先進地域を参考にしながら具体的な取組方針を示す必要がある。

イ 協議会と窓口機能について

今年度の「石狩市若者相談支援事業」の業務委託と、本事業の講習会と会議の開催により、支援体制の大枠が出来たが、今後は、地域に根差した支援体制としていくため、窓口の周知とともに、実践的な取組とすべく、機能の評価も含めて取り組んでいくことが必要である。

ウ 近隣の関係機関との連携について

会議と講習会により、機関の連携の意義が共通認識として得られた。平成25年度中の協議会の設立に向け、本事業に参画した機関以外の参加についても検討し、参画を呼び掛けていく。